

■ 平成28年11月1日～11月2日 経済労働委員会県外調査（岡山県）

1 11月1日 真庭市役所（岡山県真庭市久世）

【調査目的】

バイオマスタウンの概要について

【調査概要】

真庭市におけるバイオマスタウンの概要について説明を受け、施設見学・質疑応答を実施

<説明の概要>

- 人口47,367人（2016年7月1日現在、住民基本台帳）。面積828km²（森林面積656km²、79%）。
- 人口林率割合は、人工林59%、天然林38%、その他3%。樹種別では、ヒノキが72%が多い。
- 1993年：21世紀の真庭塾誕生
 - 1998年：循環型地域社会の創造、町並み景観保存
 - 2000年：木質資源活用産業クラスター構想
 - 2002年：資源循環型事業連携協議会、21世紀の真庭塾法人格取得
 - 2003年：プラットホームまにわ、地域会社2社設立（真庭バイオエネルギー(株)、真庭バイオマテリアル(有)）
 - 2005年：真庭市9町村が合併、バイオエタノール実証実験開始、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）実証実験開始
 - 2006年：バイオマスタウン認定、バイオマスツアー真庭運営スタート、バイオマスタウン真庭推進協議会設立
 - 2008年：バイオエタノール実証実験終了
 - 2009年：独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）実証実験終了
 - 2010年：真庭市バイオマスリファイナリー事業推進協議会設立
 - 2011年：産業技術総合研究所との連携協定
 - 2012年：国内クレジット事業始動、バイオマスツアーをカーボンオフセットへ、未来につながるトンボの森づくりスタート
 - 2013年：真庭バイオマス発電株式会社設立（2015年4月稼働）、木質資源安定供給協議会設置
 - 2014年：バイオマス産業都市認定（3月）

【質疑応答】

- Q：この事業を始めるようになってから、雇用の関係で、例えば若い人が外に出なくなったとか、他地域から来るようになったとか、変化はどうか。
- A：若い方を雇用できる場が、バイオマス関係だけでも50以上出来てきたことがあり、製造品出荷額が真庭市では1,000億円ほどあるが、そのうち200億円が製材業や製品が、平成24年比で25%ほどの伸びている。それだけ製造品の出荷額がふえるということは、雇用の場ができていのではないかと考えている。市外からたまたまバイオマスツアーに参加したという方が、真庭市に就職したり、Iターンのような例もある。



2 11月2日 玉野競輪場（岡山県玉野市築港）

【調査目的】

玉野市競輪事業の概要について

【調査概要】

玉野市競輪事業の概要について説明を受け、施設見学・質疑応答を実施

<説明の概要>

- 開設年月日：昭和23年3月16日、敷地面積 41,160㎡
- 収容能力：総収容人員 15,000人
- メインスタンド：特別観覧席 756席、1階イス席750席、立見席4,500席
第1・2コーナースタンド：2階観覧席345席、立見席3,200席
第3・4コーナースタンド：イス席2,200席、ロイヤルルーム 25席
- 走路（バンク）：400メートル
- 玉野市競輪事業の将来ビジョン策定後の主な取り組み（来場者に対するニーズ調査結果に基づき、要望の高かったもの）
 - ナイター競輪の開催：照明を設置しミッドナイト競輪を開催。11月からナイター競輪も開催。
 - 大型スクリーンの設置：近年の来場者減少を鑑みると、コストパフォーマンスが見合わない。
 - 冷暖房施設の充実：旧投票所の空スペースを利用し、冷暖房完備の部屋を新設。投票所の間仕切りを設置し、冷暖房効率を上げた。
 - コンビニ、飲食店の誘致：コンビニエンスストアを誘致した。
- 地域の中の競輪としての取り組み（地域活性化、雇用など）
 - 競輪選手を「博打の駒」としてではなく、「プロスポーツ選手」という一つの職業としてPRする活動を選手会とともにやっている。
 - 他競技のプロスポーツ選手と雑誌上でコラボ。
 - 競輪選手になりたい方（保護者同伴）を対象にした職場見学会。
 - 幼児、児童を対象にした「こまなし自転車教室」開催。
- 包括委託をせずに、玉野市直営で事業を実施。

【質疑応答】

Q：最寄りの駅からのアクセスはどうか。

A：最寄りの駅は、JR宇野みなと線があり、競輪場から車で3分、1km少々で歩けない距離ではない。JRを利用する客は、宇野駅で下りて、無料送迎バスに乗り、決して遠くはない。

Q：一人当たりいくらぐらい、車券を買うか。

A：4～5年前までは、顧客単価が1万円ほどで、玉野競輪場についてはもっと減っている。年金生活者が多い。

